

2008年度 代表事業①

事業名 Voice of しずおか 市民討議会2008

委員会 まちづくり政策委員会
委員長：藤田 博久

副委員長：森 康博
副委員長：渡辺 章人
幹事：渡辺 正臣



事業趣旨要約 昨年(社)静岡青年会議所が取り組んだ「市民討議会」の結果を踏まえ、このまちにおける市民参画運動を推進していきます。市民一人ひとりが主体的に地域のことを考え、自分達のまちは自分達で創っていくという市民の意識変革を促進し、一人でも多くの市民が一緒になってまちづくりを協働できる場を創出致します。青年会議所自ら実践し、また率先して市民参画の可能性を提言していくことにより、現在から未来へと続いていくひとづくり・まちづくりの礎が築かれることと確信いたします。

背景 ・政令指定都市となった静岡市は「静岡市市民参画の推進に関する条例」が施行され、市民自治によるまちづくりが要求されている。
・様々な会議に参加するのは、専門家や利害関係者が多いのが現状。
・我々が住む静岡市が「明るい豊かな社会」になるためにはこうした活動に参加することがなかった方々にも会議に参加してもらう必要がある。

効果 ・本年度は静岡市との共催で行うため、参加者の抽出を静岡市との協働により、住民基本台帳を使用する方法で行う。その結果、より静岡市民の「声なき声」に近い意見を抽出できる。
・リーフレットを用い市民討議会自体の周知を行い、4月より行うことにより長く効果的にPRできる。

目的 対外：市民が自分の住むまちを自分自身で創っていくという意識に変わること。
対内：市民の意識変革を促すことによりまちづくり活動を行う。

事業概要 実施日時：2008年8月30日(土)13時～17時・31日(日)10時～17時
実施場所：城東保健福祉エリア
参加人数：静岡市民 36名
決算総額：1,447,625円

例会の流れ・目的 運営形態：(社)静岡青年会議所・静岡市 共催
実行組織の構成と人数：主管 Voice of しずおか市民討議会実行委員会(20名)
静岡青年会議所メンバー
NPO 有識者 学生 福祉関係者 その他一般
静岡市職員(経営企画部分権推進課)

無作為抽出の方法：16歳以上住民基本台帳からランダム抽出
参加依頼状の発送数：2000枚
参加見込数：36名
プログラム：二日間連続開催(1.5日)プログラム
1日目討議 1回 / 2日目討議 3回
テーマ決定の背景：市民参画による静岡市健康福祉基本計画策定
テーマ：～安心して 健やかに とともに暮らせるまち
その計画づくりに市民の想いとアイデアを～
討議方法：6名×5グループ
情報提供を聞く(施設見学を含む)
意見を付箋に書き、討議ボード(模造紙)にまとめ
→グループ発表→人5ポイントのシール投票
意見の取扱方法：「実施報告書」の作成・配布
市長へ提出
静岡市経営企画部・静岡市福祉部福祉総務課へ提出
HPへ掲載

達成検証 対外：市民討議会を開催し市民が参加することによりまちづくりに対し積極的になり、市民が自分の住むまちを自分自身で創っていくという意識に変わることができた。
対内：市民討議会の市民の討議を通じて、静岡青年会議所メンバーが、市民にまちづくりをしていくという市民の意識変革を促すことによりまちづくり活動を行うことができた。

基本方針「市民意識の変革、地域との協働体制の創造」の実現への効果
・市民討議会を実施することにより行政への市民参画に対する市民意識の変革に繋がった。
・実行委員会にて、市民、NPO等との協議により協働体制の基礎が創造できた。

所見 継続事業として、昨年に引続き二回目の開催となった市民討議会は、本年は静岡市との協働開催の実現という、大きく前進した形で実施することができました。
協働開催が実現した結果、住民基本台帳の使用により、昨年に比べ様々な年代層からの参加者を得ることができ、開催場所の選定、内容のプログラムについても非常に充実したものとなりました。
参加者の交流を基調にした明るく楽しい討議会の運営により、討議会二日間を盛大に開催することができた点でこの「静岡型市民討議会」は非常に評価できるものであり、今後も継続発展させていくべきものと考えます。将来的には、市民討議会に賛同するより多くの静岡市民を巻き込みながら、この市民討議会が真に市民の手により継続実施されていくことを期待します。



担当委員長Q&A

01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

前年のまちづくり事業に参加した際に、JCのなかでも取組み始めたばかりの事業であったため、これは継続すべき事業だと思い、「Voice of しずおか」を選定しました。

02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

事前の予習が大切であったため、メンバーのレベルを合わせることに苦労しました。

03 メンバーをまとめる上で工夫した点を教えてください

メンバー個々に具体的なお願いをしました。

04 事業を行う上で苦労した点を教えてください

実行委員会というJCとは別の市役所、NPOなどプロの集団組織があったため、単年度制である我々とは知識レベルが違い過ぎ、まとめるのが大変でした。

05 事業を行う上で感動した点を教えてください

市役所と協働することは初めての試みだったが、しっかりとまとまり事業を終えることができた点が感動しました。

06 1年を通して一番苦労した点を教えてください

「全部」です(笑)。
前年の「まちづくり委員会」メンバーが1人もおらず、スタート段階で他のNPO団体との差が歴然とマイナスからのスタートで苦労しました。

07 どれだけの会議を重ねましたか？

事業が近づくにつれ回数も増え、事業間近は毎日行いました。

08 事業に協力してもらった企業・団体に対する想いを教えてください

感謝の気持ちしかありません。
事業をやっていたというよりも、市役所・NPOをはじめ、皆さんに引っ張っていただきました。

09 事業の中で1番印象に残ったことは何ですか？

住民基本台帳を利用してランダムに様々な年齢層の人たちを選しましたが、参加していただいた人が皆楽しんで帰ってくれたことです。

取材全体としてのまとめ・感想

Voice of しずおかにおいては、単年度制であるが故、JCのシステムが上手く機能しないのではないかなと思いました。専門家の集まる実行委員会との知識レベルの差が歴然とする中でJCの持ち味がしっかりと生かされていない感じがありました。JCにしかできないことを探っていくことが重要なのではないかなと思いました。

10 継続事業として2回目の開催でしたが、静岡市と協働開催するという大きく進展した形での実施でした。

「健康福祉を考える」という抽象的な大テーマの選定でしたがテーマ選定の背景はどの様なものでしたか？
当時の静岡市が市民に聞きたい事が「健康福祉」であったためです。

11 市民から意見を聞き出す際に工夫した点はありますか？

みんなが飽きずにとまてることができるよう、できる限り分かりやすく説明し、親しみやすい雰囲気を作る事を心がけました。

12 この事業を行うことにより、委員長及びメンバーの市政に対する見方の変化などはありましたか？

参加していた市の職員が真剣に取り組んでいたことがとても印象に残りました。

13 2年連続2年目の開催ですが、前年度の事業との違いもしくは工夫した点について教えてください。

協働開催が1番の違いですが、その中でもJCらしくテーマに沿い、サポーターや重りなど様々な道具を使用し、お年寄りの身体機能低下を疑似体験し、より理解を深める体験的なものを取り入れました。

14 「Voice of しずおか」は現在も継続的に行われていますが、

藤田さんから見て当時と比較し現在の様映っていますか？

「静岡型」と言っても良いようなものが徐々に確立され、現在の市民協議会は当時に比べ短期間で出来上がってしまいう程の精度となり、円熟の域に達していると思います。しかしJCと実行委員会のレベルの差は益々大きくなり、今の形でJCが参画しても色を出すのが難しいと感じます。また、市民協議というシステム自体が限界にきていますので、どの様に打破していくのが今後の課題だと思います。

取材前後での特に気付いた点

前年に引き続き2回目の開催となり、事前準備から順調に事業が進んでいたのだと思っていましたが、実際には前年から引き継いでいるメンバーが1人もいない為、実行委員会とJCの間にはかなり知識の差があったことが分かりました。